

# 崎津集落が世界の宝に!!

ついに迎えた歓喜の瞬間

富津地区コミュニティセンターのバブリックビューイング会場には、世界遺産委員会のようすを見ようと450人以上が集まり、その瞬間を見守りました。

6月30日(土)午後5時50分

「登録決定!」

その瞬間、風船を飛ばしてみんなで登録を喜びました。

世界中の人が共有して未来に引き継いでいくべき貴重な宝物「世界遺産」。それらはユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が年に一度、世界遺産委員会を開催し審議・決定します。

今年は、6月24日から7月4日まで、中東のバーレーンで開催されました。

新たな資産候補の審査が28件ある中、7番目の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は、日本時間の6月30日夕方に審議されました。

まず、ユネスコの諮問機関であるイコモス(国際記念物遺跡会議)が内容を説明。

登録を確信した議長の「次の審議に進みたいが、反対意見はありますか?」との問いに対し、「禁教の下、地域が協力して築き上げたことが良くわかり、とても素晴らしい」、「国とイコモスが連携して取り組んでいただいた。今後の模範となるような良い例でお礼を言いたい」など13カ国から称賛する発言が続きました。反対意見は出ないまま採決を迎え、世界遺産にふさわしいと登録が決定しました。

取り組みを始めて11年。2年前に一度推薦を取り下げ、内容を見直してからの再挑戦を経て、崎津集落を含む「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」は人類共通の宝として認められました。

本庁・世界遺産推進室(河浦支所内) ☎1116



- 1 決定の瞬間、風船を飛ばしてみんなで喜んだ
- 2 関係者全員で登録決定の横断幕を手に記念撮影
- 3 決定を祝してくす玉割り
- 4 くまモンから「せかいいさん おめでとーだもん★」と手書きのお祝いメッセージ

## 世界遺産委員会での審議内容

- 他に類を見ない歴史を語る価値があり、イコモスと協力して取り組んだ結果、他国の手本となる事例
- 信仰という形の無いものが含まれる資産であるため、保全には地元住民や自治体の努力が不可欠
- 各構成資産の特性に配慮しながら、観光対策などにも引き続き取り組んでほしい



## 「崎津集落」の世界文化遺産登録が決定されました。

皆さんとともにこの瞬間を迎えることができ、大変うれしく思います。長年にわたり、ご協力頂いた地域の皆さん、教会関係の皆さんおよび国、熊本県・長崎県、関係市町の皆さんに深く感謝いたします。世界の宝と認められた崎津集落を確実に将来に引き継いでいくという大きな責任に、身の引き締まる思いです。これからも、住む人に誇りを、訪れる人に感動を与えられるような「魅力ある地域づくり」に関係者の皆さんと一丸になって取り組んでまいります。

2018	2017	2016	2015	2014	2012	2007
7月~ 6月 ●第42回世界遺産委員会 (バーレーン)	5月 ●イコモスが「記載II登録」が 適当であると勧告	2月 ●推薦書をユネスコへ提出	9月 ●「長崎と天草地方の潜伏キ リシタン関連遺産」へ名称 が変更	7月 ●文化審議会が国内推薦候補 に選定	2月 ●イコモスの中間発表を受け、 推薦を取り下げ	1月 ●イコモスが「禁教期に焦点を 当てるべき」と指摘
					7月 ●文化審議会が国内推薦候補 に選定	1月 ●「長崎の教会群とキリスト 教関連遺産」が、国の世界文 化遺産暫定リストへ記載さ れる(文化庁が長崎県に対 し隣接する資産について検 討するよう指示)
					6月 ●崎津集落が構成資産に含ま れる	1月 ●「長崎の教会群とキリスト 教関連遺産」が、国の世界文 化遺産暫定リストへ記載さ れる(文化庁が長崎県に対 し隣接する資産について検 討するよう指示)

これまでの歩み



12の資産で構成される「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」。それぞれの世界遺産としての価値や位置づけを、パンフレット(ダイジェスト版)から抜粋して紹介します。

#### IV 宣教師との接触による転機と「潜伏」の終わり

1854年の開国からまもなく長崎に来た宣教師たちは、「大浦天主堂<sup>⑫</sup>」を建設し、居留地の西洋人のために宣教活動を行った。1865年、大浦天主堂の宣教師と浦上村の潜伏キリシタンが出会った「信徒発見」をきっかけに、多くの潜伏キリシタンが信仰を表明したため、再び弾圧が強化され、摘発事件が相次いだ。やがて弾圧に対する西洋諸国の強い抗議が相次ぎ、1873年、明治政府は禁教の高札を取り除き、キリスト教は解禁された。潜伏キリシタンは、宣教師の指導下に入ってカトリックへ復帰する者、引き続き禁教期の信仰を实践する者、神道や仏教へと改宗する者へとそれぞれ分かれた。カトリックに復帰した集落では新たに素朴な教会堂が建てられていったが、「奈留島の江上集落(江上天主堂とその周辺)<sup>⑪</sup>」に建てられた江上天主堂は、移住先の風土に適應した在来の技術のあり方を示すとともに、「潜伏」が終わりを迎えたことを象徴的にあらわしている。



⑫ 大浦天主堂  
大浦天主堂



⑪ 奈留島の江上集落  
(江上天主堂とその周辺) 江上天主堂

#### III 潜伏キリシタンが共同体を維持するための試み

18世紀の終わりになると、外地地域の人口が増加し、五島列島などへ開拓移住が行われた。開拓移住者の中には潜伏キリシタンが多く含まれていた。彼らは自分たちの共同体を維持するために、藩の再開発地(黒島の集落<sup>⑦</sup>)や神道の聖地(野崎島の集落跡<sup>⑧</sup>)、病人の療養地(頭ヶ島の集落<sup>⑨</sup>)、未開発地(久賀島の集落<sup>⑩</sup>)など、既存の社会や宗教との折り合いのつけ方を考慮して移住先を選択した。このように潜伏キリシタンは、信仰を实践するために拝んだ独自の対象や、共同体を維持するための移住先の選地により、2世紀にわたって信仰を続けていった。



⑧ 野崎島の集落跡  
五島列島一円から崇敬を集めていた「沖ノ神嶋神社」



⑦ 黒島の集落  
藩の牧場の跡地を開拓した「蕨集落」



⑩ 久賀島の集落  
先住者の仏教徒と共に開拓した「大岡集落」



⑨ 頭ヶ島の集落  
病人の療養地であった「白浜集落」

写真: ⑦日暮雄一、⑧池田勉

#### II 潜伏キリシタンが信仰を实践するための試み

日本各地の潜伏キリシタン集落は途絶えていったが、キリスト教の伝来期に最も集中的に宣教が行われた長崎と天草地方においては、18世紀以降も共同体がひそかに維持され、独自に信仰を实践する方法を模索していった。それは、山や島(平戸の聖地と集落<sup>②③</sup>)、生活・生業に根ざした身近なもの(天草の崎津集落<sup>④</sup>)、聖画像(外海の出津集落<sup>⑤</sup>)、神社(外海の大野集落<sup>⑥</sup>)など、それぞれの集落で独自の対象をひそかに拝むというものであった。



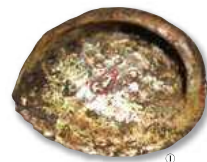
② 平戸の聖地と集落  
(春日集落と安瀾庄)  
③ 平戸の聖地と集落  
(中江ノ島)



⑥ 外海の大野集落  
キリシタンを信仰対象として祀る「門神社」



⑤ 外海の出津集落  
ひそかに伝承した「無原罪のプラケット」  
(長崎市内・口神父記念館所蔵)



④ 天草の崎津集落  
信心具として代用されたアワビ貝(個人所蔵)  
赤で囲っている部分を聖母マリアに見立てて拝んでいた



① 原城跡  
発掘調査で出土した信心具  
(メダイ・十字架、南島原市有馬キリシタン遺産記念館所蔵)

## 世界遺産としての価値

#### I 宣教師不在とキリシタン「潜伏」のきっかけ

1549年、イエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルによってキリスト教が日本に伝えられ、その後が続いて来日した宣教師たちの活動や、南蛮貿易の利益を求めて改宗したキリシタン大名の保護によって全国に広まった。しかし、豊臣秀吉のバテレン追放令に続く江戸幕府の禁教令により、すべての教会堂は破壊され、宣教師は国外へ追放された。1637年、禁教が深まる中、圧政をきっかけにキリシタンが蜂起して「原城跡<sup>①</sup>」に立てこもった「島原・天草一揆」に衝撃を受けた幕府は、宣教師の潜入の可能性のあるポルトガル船を追放し、海禁体制(鎖国)を確立した。1644年には最後の宣教師が殉教。残されたキリシタンは、民衆レベルの信仰の共同体を維持しながら「潜伏」して信仰を続けた(彼らを「潜伏キリシタン」と呼ぶ)。これらの共同体は17世紀後半に起こった大規模なキリシタン摘発事件によって順次崩壊し、潜伏キリシタンの多くが棄教、殉教した。

#### ※潜伏キリシタンとは?

キリスト教禁教期の17~19世紀の日本において、社会的には普通に生活しながらひそかにキリスト教由来の信仰を続けようとしたキリシタンのことを学術的に「潜伏キリシタン」と呼んでいる。そして、彼らの「信仰を实践するために独自の対象を拝むという試み」と、「共同体を維持するために移住先を選ぶという試み」を併せて「潜伏キリシタンの伝統」と呼ぶ。

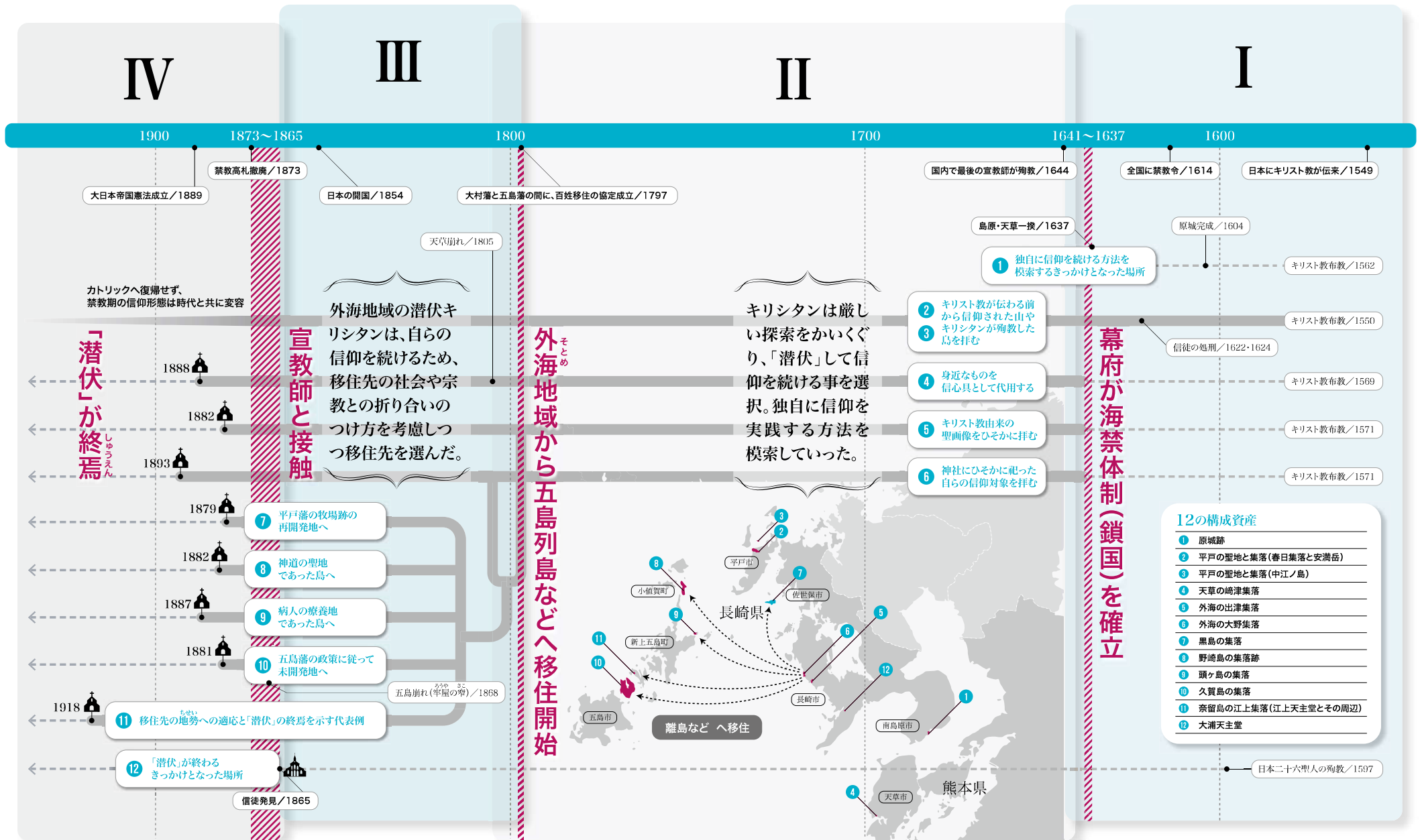
価値について詳しくは、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」公式サイトをご覧ください。

<http://kirishitan.jp>

潜伏キリシタン遺産

検索

# 構成資産の位置づけ



世界文化遺産「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」パンフレット(ダイジェスト版)から抜粋





●崎津諏訪神社と旧崎津教会跡

島原・天草一揆の10年後に建てられ、一揆の後にはキリスト教の取り締まりがとても厳しくなりました。1805年に集落の約70%がキリシタンだったと発覚する「天草崩れ」の舞台となった神社です。鳥居は天草で一番古く、春は桜、秋は紅葉がきれいです。

もともと崎津教会は神社のすぐ下に建てられました。老朽化が進み解体され跡地には修道院が建てられました。



●きんつ市場

「ほうぼう」という魚のことを崎津では「きんつ」と言います。方々(ほうぼう)からたくさんの人に来てほしいということでご名づけられました。崎津漁港からはクルージングも楽しめます。船上からの景色は最高で、夕陽とマリア像がきれいです。



登さん



- = 観光駐車場(無料)
- = 音声ガイドスポット
- = 公衆トイレ
- = 多目的トイレ

観光客からも可愛くてほっこりすると好評の中学生のガイド。ガイドの指導に当たった天草宝島案内人の会会長の金澤さんは、「笑顔もあって、聞いていて分かりやすい。中学生がこのような取り組みで盛り上げてくれて頼もしく感じています」と話していました。

7月6日には新たな中学生ガイドの募集ガイダンスもあり、15人が応募。講習や現地研修を経て10月にデビューします。



問 崎津集落ガイダンスセンター ☎ 096000

●トウヤとカケ

家と家の間の路地を「トウヤ」と言います。集落には40ほどあり、幅は約90cmです。住民の皆さんの交流の場になっています。

カケは海にせり出す漁師の作業場です。



大橋くん



●崎津資料館みなと屋

昭和11年に建てられた旅館を改修して資料館にしました。間取りは当時のままで、3つの展示室があります。昭和初期の街並みを再現したジオラマもあります。

みなと屋の裏手には付属施設の「つどい処まつだ」があります。絵画や写真などを展示していて、8月31日までは長崎県出身の歌手・福山雅治さんのメッセージ動画も流れています。



野元くん



教会内は、撮影禁止です。

畳が敷いてある教会はとても珍しく、日本と西洋文化の交流を象徴するものです。

天井はコウモリが羽を広げているように見えるのでコウモリ天井と言います。奥の祭壇あたりで絵踏みが行われていたそうです。



大野さん



崎津集落まち歩き

今日まで信仰が引き継がれている崎津集落。そんな集落の歴史や見どころを地元の中学生在案内します!

【河浦中学校観光ボランティアガイド】

このガイドは、もともと河浦高校生が平成27年12月に世界遺産への登録を目指す集落を盛り上げようと開始。平成29年3月に同校が閉校。河浦中学校の生徒の中から「私もやってみたい」との声が上がり、市が5回の講習を実施し中学生ガイドを養成。

昨年10月から月に1回、「天草ぐるっと周遊バス」を利用する観光客を対象にガイドしている。

今後の中学生ガイドの予定

8/5、9/9、10/28、11/4、12/16、1/20、2/17、3/17

●崎津教会

1934年(今から84年前)に建てられたゴシック様式の教会です。教会の外は写真が撮れるので、ぜひ撮ってください。

建物の横に回ると、前3分の1が鉄筋コンクリートで残りは木造になっています。理由は、土地代が高くて建物のお金が足りなくなったからと言われています。

以前は教会の裏に保育園があり、40人ほどあずかっていました。フランス語でシャンソンも教えていたそうです。

教会を建てる前は、庄屋さんの役宅でした。





### 第30回「教会の見える崎津みなとのフェスティバル」

と き：8月12日⑩午後3時～  
 ところ：崎津漁港広場  
 内 容：出店やステージイベントあり  
 午後7時30分～ 教会ライトアップ  
 午後8時～ 打ち上げ花火



☎ 0001 同実行委員会

### 世界文化遺産登録記念「天草サマースタンプラリー」開催中

期間：9月30日⑩まで  
 内容：対象の宿泊施設に泊まって「泊まる」スタンプ1個。対象の各店舗で500円以上の利用や資料館の入館で「楽しむ・学ぶ」スタンプ2個(合計3個)を集め、アンケートに記入し応募。抽選で10万円分・5万円分・1万円分の天草観光商品券や天草陶磁器の皿などが当たります。



詳しくは、天草宝島 検索

☎ 2243 (一社)天草宝島観光協会

## 崎津だけじゃない!天草のキリシタン文化

崎津集落だけでなく、市内には南蛮文化やキリシタン文化を感じることができる施設があります。登録を祝して行われるイベントも盛りだくさん。天草の歴史を感じる夏にしてみは?

#### 天草コレジヨ館(河浦町)

キリスト教伝来後、天草には宣教師を養成する大神学校(コレジヨ)が開校し、西洋文化が花開く。それらの歴史と文化を紹介する施設。



▲グーテンベルク印刷機(複製)

#### 天草・長崎キリシタン遺跡写真展

##### 「島原・天草一揆とキリシタン王国島原半島」

と き：9月2日⑩まで  
 内容：島原半島や天草のキリシタン関連の遺跡写真や解説パネルなど約50点を展示。

#### 世界文化遺産登録記念特別展

##### 「受け継がれた祈りのかたち～信仰具からみた天草のキリシタン史～」

と き：9月17日⑩・㊿まで  
 ところ：崎津資料館 みなと屋2階  
 内 容：崎津で大切に継承されてきた潜伏キリシタンの信仰具や天草崩れ関係史料のほか、長崎市内の遺跡から出土した信仰具など約120点を特別展示。



#### 天草キリシタン館(船之尾町)

島原・天草一揆を中心とした天草キリシタン史を3つのゾーン(キリスト教の伝来、島原・天草一揆、潜伏キリシタン)で紹介している施設。



▲「天草四郎陣中旗」を公開

と き：8月1日㊿～7日㊿  
 内容：国指定の重要文化財「綸子地著色聖体秘蹟(通称：天草四郎陣中旗)」は、劣化防止のため実物の公開日数が制限されています。この機会に、ぜひご覧ください。

#### 天草ロザリオ館(天草町)

禁教下、厳しい弾圧に耐え忍びながら過ごした天草のキリシタンたちの生活や文化を物語る遺品などを展示している資料館。



▲オラショ(祈り)を唱えていたかくれ部屋のジオラマ

#### 天草・長崎キリシタン遺跡写真展

##### 「長崎生月島の潜伏キリシタン」

と き：9月2日⑩まで  
 内容：生月島の潜伏キリシタンの状況を遺跡写真や解説パネルなどで紹介。



麦島勝氏撮影(昭和24年) 天草アーカイブズ提供

崎津集落を含む富津地区振興会と信徒会では、観光客の多い休日に街頭に立つて通行案内などの「おもてなし」を始めている。同振興会長の森田さんは、「崎津の景観と雰囲気を守っていききたい。これまで守ってきた、そのままの崎津をたくさんの人に知ってほしい」とその思いは強い。世界遺産推進室の丸林室長は、「登録は後世に残すための手続きで、今がスタート地点。先人たちが守ってきたものを我々も後世に残していかなければいけない」と気を引き締める。

地域で話を聞くと、「観光客が増えるのは嬉しいけど、家の前をたくさん人が通るのでカーテンは閉めたまま。玄関も鍵をかけるようになった」と期待と不安が入り混じっている。

## 人々の生活の中にある世界遺産

これから増えるであろう観光客に対しては、訪れる人も、迎える人も一定のルールやマナーを守っていくことが大切になります。登録が決定したこの世界遺産の価値は教会や町並みなどの景観だけに對するものではなく、数世紀にわたる人々が守ってきた日々の営みそのものであり、今も続いていることを忘れてはいけません。これをいかに守っていくかが私たちに課せられた課題です。今も昔も、「平穏な日常」を願う。この祈りは変わらないのかもしれない。

